

看護学科 2年 前期 専門基礎科目／専門科目

1. 母性・小児疾病治療管理論
2. 精神疾病治療管理論
3. 看護倫理
4. 医療安全管理論
5. 国際・災害看護活動論
6. 在宅看護学援助論 I
7. 精神看護学援助論 I
8. 成人看護学援助論 I
9. 成人看護学援助論Ⅲ
10. 高齢者看護学援助論 I
11. 小児看護学援助論 I
12. 母性看護学援助論 I
13. 基礎看護学実習 II
14. 看護研究 I (看護研究の基礎)

看護学科

2年

科目名: 母性・小児疾病治療管理論				担当教員 氏名: 吉本英生(母性) 木田和典、長森万里子(小児)	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			臨床医が経験を活かして、疾患、治療の理解と現状について教授する。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
・新生児から思春期にかけての小児期における看護援助をするために、小児期における疾患の特徴および精神・社会的問題を理解する。・妊娠・分娩・産褥の正常な経過と各期における異常および婦人科疾患について病態を理解し、医学的処置について理解する。				小児・成長・発達・疾患・環境 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 6. 10	
A 知識・理解力		胎児・乳児の成長に影響する母体と小児期の成長発達の正常と異常について理解できる。			
C 論理的思考力		連続した成長発達に及ぼす影響を複眼的、論理的に整理できる。			
E 自己管理能力		学生自身の予防接種や罹患した病気を通して小児期の健康管理について考えることができる。今後の自らの妊娠・出産について考えることができる。			
G 倫理観		弱者としての妊産婦および小児を守り、その環境を健全にする意識を持つ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項: 【木田】出席をとります。テストで評価します。 【長森】出席をとります。テストで評価します。 【吉本】出席をとります。テストで評価します。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (課題解決型学習) デイスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終回の講義のあとにまとめてテストを行います(長森) 講義とは別にテストを行います。(吉本)					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:【吉本】試験の解答を提示し授業ノートで確認【長森】試験の解答と一緒に講評を文章にして後日配布します。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【木田】小児の成長と発達、その評価法、栄養と小児保健、予防接種、新生児、先天異常、マスキング、先天性心疾患			【復習】講義の内容を復習する	180分	
②【長森】小児のよく見られる疾患、呼吸器、アレルギー、感染症				180分	
③【長森】小児のよく見られる疾患 神経疾患、皮膚疾患、小児救急			【復習】講義の内容をテキストで確認し復習する	180分	
④【長森】小児の慢性疾患、障害児				180分	
⑤【吉本】妊娠期の異常				180分	
⑥【吉本】分娩期の異常			【予習】講義内容箇所のテキストを読む	180分	
⑦【吉本】産褥期・新生児の異常				180分	
⑧【吉本】婦人科疾患と治療			【復習】講義内容を講義ノートで復習する	180分	
使用テキスト: ①系統看護学講座 専門25 母性看護学各論 母性看護学 [2]医学書院 ISBN 978-4-260-04223-9(吉本) ②メディカ出版 疾病と看護⑨女性生殖器 ISBN 9784840469050(吉本) ③ナースの小児科学 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5 (木田、長森) ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]医学書院 ISBN 978-4-260-03866-9 (長森)			その他参考文献など: 「新生児蘇生法テキスト」 「病院前救護のための産科救急トレーニング」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):小児は大人のミニチュアではない。受胎に始まり、成長と発達を重ね思春期に至る小児の身体・精神的特長を理解して欲しい。小児では、個々の疾患の治療のみならず、成長と精神発達を加味した包括的医療があることを理解して欲しい。肉体的・精神的弱者としての小児の特異性を、社会医学的観点から理解し、患児や家族にいたわりの気持ちを持って接することができる医療人になって欲しい。					

看護学科

2年

科目名：精神疾病治療管理論				担当教員氏名：田仲 耕大、高野 利明		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門基礎科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：【田仲】とかく難解と思われやすい精神医学ですが、まずは興味を持っていただけるような、そして将来、臨床現場で役に立つような授業内容を心掛けています。 【高野】臨床心理士としての体験事例を多く示し、実際のかかわりを理解しやすくする。						
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
精神疾患治療管理論では精神障害の症状、分類、診断、治療およびリハビリテーションなどに関する臨床医学の主要専門領域である精神医学について、看護に必要とされる基礎知識を習得する。また、家族援助の意義と留意点を臨床心理士のかかわりを通して心理学的観点から学ぶ。				精神障害の症状、分類、診断、治療、リハビリテーション、家族支援		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 5. 6. 8. 9				
A 知識・理解力	①精神疾患を成因的に分類できる					
B 専門的技術	②主要な精神疾患の概要を述べることができる					
D 問題解決力	③精神科治療に関わる治療法の特徴と各障害への適応を知る					
H コミュニケーション力	④家族援助の必要性を理解する					
	⑤家族アセスメントの方法を理解する					
	⑥かかわり方の留意点を理解する					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 50 %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項： 【田仲】適宜、必要となる知識の確認をする。 【高野】レポートのテーマや提出日などは講義内で提示する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 【田仲】毎回の授業の終了時にリアクションペーパーを記述する。まとめとして知識の確認をする。 【高野】講義で印象に残ったことに感想を入れて、レポートにまとめる。 レポートはA4、1ページ。書式は自由。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：【高野】レポートにコメントをつけて返却する。 【田仲】試験終了後に答案を模範解答・解説と一緒に返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容			学習に必要な時間(分)
①【田仲】序論・歴史・精神症状学			【予習】疾患と治療について考える		60分	
②【田仲】統合失調症			【復習】配布資料の確認と復習		60分	
③【田仲】気分障害			【復習】配布資料の確認と復習		60分	
④【田仲】神経症性障害、摂食障害など			【復習】配布資料の確認と復習		60分	
⑤【田仲】器質性精神障害など			【復習】配布資料の確認と復習		60分	
⑥【田仲】疾患論のまとめ			【予習・復習】まとめ		60分	
⑦【高野】家族援助の意義、家族のストレス			【復習】講義内容の整理		【復習】120分	
⑧【高野】家族のアセスメント、かかわり方の留意点			【復習】講義に関するレポートを作成		【復習】120分	
使用テキスト： 【田仲】精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本(ナーシンググラフィカ)、精神看護学(2)：精神障害と看護の実践(ナーシンググラフィカ) 【高野】不要			その他参考文献など： ・家族が知りたい統合失調症への対応Q&A 高森信子 著(日本評論社) ・看護のための精神医学 中井久夫/山口直彦 著(医学書院)			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 精神看護学援助論の履修に必要な知識を学習するので、しっかり取り組んでください。 患者や家族に対し現在の援助はチームを組んで行うのが一般的です。 他の職種が援助でどの部分を支え、どんなかかわり方をするのかを知ってください。						

看護学科				1 年	
科目名: 看護倫理			担当教員 氏名: 高田 亮子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ICUの実務経験から、治療への患者・家族の意思決定場面や拘束等の実際を体験し、倫理的ジレンマを感じる場面が多くあった。倫理とは何か、看護に求められる倫理とそれに基づいた援助とはを考えながら、授業に活かしたい。			
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
看護は、対象のもつ力を最大限に引き出し、病気やそれに伴う心理・社会的な問題を対象とともに解決することである。そこには、常に課題とそれに対する対象の意思決定が必要とされる。倫理的感受性を持ち、対象の意思決定の支援ができる能力を育成する。			倫理、法、道徳の考え方 倫理的判断 倫理原則 倫理的意思決定		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	対象のヘルスニーズを判断するために必要な基礎的知識や技術を習得できる。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個別性を支えるために正確な知識、技術の習得の必要性がわかる。				
C 論理的思考力	看護過程の展開の技術を習得できる。				
D 問題解決力	科学的・分析的態度を身につけることができる。				
E 自己管理能力	演習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、リーダーシップおよびメンバーシップのあり方を形成する。				
F チームワーク・リーダーシップ	人間関係を成立・発展させる技術として、コミュニケーション技術の実践への活用方法が理解できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項:「レポート:40%」については、提出状況や内容についてを評価する。 「その他:20%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
課題学習、グループワークを行う。テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。5回小テストを実施する。(講義前)					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題については修正部分を指摘し、修正し再提出されたものを評価対					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①倫理学の既習内容、倫理的葛藤の考え方、実習における倫理的葛藤場面の描写			【予習】テキストP10~22をまとめ 【復習】課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
②事例の解釈について(倫理的課題の分析)			【予習】テキストP140~152をまとめ 【復習】課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
③倫理とはなにか倫理的課題解決のプロセス			【予習】テキストP10~22をまとめ 【復習】課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
④各自で、自らの事例の分析を行う			【予習】各自の事例の抽出・文献検索 【復習】事例の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑤個人の分析内容をもとに分析を多角的に行う			【予習】文献検索 【復習】事例の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑥同上			【予習】文献検索 【復習】事例の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑦PPにまとめる			【予習】PPの構成の計画 【復習】PPの作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑧発表会			【予習】PPの発表準備 【復習】学びのレポート	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト:1. 看護倫理 医学書院 ISBN978-4-260-03445-6			その他参考文献など: 1.看護倫理 学研 石井トク他 2.看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方 医学書院 吉武久美子 3.身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規 宮脇美保子		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):医療におけるパターナリズムに潜む倫理的課題が看護現場には多く存在する。常に看護者として倫理的視点にたち、対象のもつ権利擁護できる力が必要とされている。倫理的感受性を育てながら、対象の意思決定支援が行える看護者として学んでほしい。					

看護学科				2 年	
科目名: 医療安全管理論			担当教員 氏名: 山元 恵子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
看護・医療事故予防に関する知識・技術を得し、安全な医療ケアが提供できるように、患者に存在する危険を認識する能力を持つこと。さらに危険予知能力を持つことの重要性や根拠を理解し行動できる実践力を身につける。				医療安全・リスクマネジメント 危険予知・インシデント	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	医療における安全管理の重要性を理解し、安全対策について行動できる				
B 専門的技術	事故防止の考え方を理解し、危険予知能力を身につけて実践できる				
D 問題解決力	看護ケアの特殊性から危険防止の観点で危険リスクを考慮して分析し安全行動ができる				
F チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通してチームメンバーとしての役割を自覚するとともに、メンバーの意見や考え方の違いに気づき、尊重しながら自分の考えが言える。メンバー相互の理解を深め、統合された内容を発表できる				
G 倫理観	危険を察知できる感性を持ちながら倫理的配慮をすることができ、行動できる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: KYTの実際を理解し、グループ発表する。発表内容も評価する。病院の医療安全管理看護師から実際のリスクマネジメントを学ぶ。「その他」は出席状況や授業態度など総合的に評価する。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決学習 (ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク)					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 課題レポートは授業ごとに提示する。テストは8コマ終了時に実施					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートは提出後コメントを記入し返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【山元】医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向			【予習】テキスト(1章)を読む 【復習】復習課題と配布資料の復習	【予習】90分 【復習】90分	
②【山元】医療におけるリスクマネジメント(ヒヤリハットレポート作成)			【予習】テキスト(2章)を読む 【復習】復習課題と配布資料の復習	【予習】90分 【復習】90分	
③【山元】医療事故のメカニズムと人間工学的対策			【予習】テキスト(3章)を読む 【復習】復習課題と配布資料の復習	【予習】90分 【復習】90分	
④【山元】リスクマネジメントのプロセス(危険予知トレーニング)			【予習】KYTの手法を理解する【復習】グループ演習からの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑤【特別講義】臨床におけるセフティマネジメント (病院における医療安全管理者の役割など)			【予習】第4章の医療現場における体制を理解する【復習】復習課題と配布資料の復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑥【特別講義】臨床におけるセフティマネジメント (病院における医療安全管理体制の実際)			【予習】現場のリスクマネジメント管理について資料をまとめる【復習】復習課題配布資料	【予習】90分 【復習】90分	
⑦【山元】臨床における事故発生の現状と安全管理			【予習】事例分析から安全管理体制についてまとめる【復習】課題をまとめる	【予習】90分 【復習】90分	
⑧【山元】医療における安全管理総括			【予習】課題レポートの作成とまとめ、テストの準備【復習】最終試験学習	【予習】90分 【復習】90分	
使用テキスト: ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践2 「医療安全」ISBN978-4-8404-5385-1 C3347			その他参考文献など: ・「看護実践マネジメント/医療安全」メヂカルフレンド社・「医療安全ワークブック 第3版」川村治子著 医学書院・「ヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術」川島みどり		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護学生として危険を察知する能力を身につけるために、安全管理の知識や技術を学習して「気づく力」を獲得してください。					

看護学科

2年

科目名：国際・災害看護活動論				担当教員氏名：山本 朋子、立瀬剛志、特別講師	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：					
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード	
1. 災害看護と国際看護について理解できる 2. 看護師としての災害支援、国際支援の役割とあり方について考えることができる				国際機構、ミレニアム開発目標、SDGs、ヘルスプロモーション、国際協力、国際支援 災害サイクル、トリアージ、心的外傷後ストレス障害	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		現場で起きている問題について、その背景や影響などを踏まえた考察ができる			
D 問題解決力		困難な状況下において看護師という専門職の立場で問題に対処する意識をもつことができる			
F チームワーク・リーダーシップ		世界で起きている災害、貧困、紛争への関心を深める			
G 倫理観		グローバルな視点で物事を捉えることができる			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：60%	レポート：30%	発表：0%	実技試験：%	その他：10%	
特記事項：・山本先生：試験60% ・立瀬先生：レポート30% ・その他10%は出席状況、授業態度、課題提出状況 から総合的に評価する。					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポートは講義時に課題を提示する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート提出ならびに学習発表においてコメントを行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な 時間(分)
①【山本】国際看護とは			【予習】テキスト第10章読む 【復習】テキスト第10章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
②【山本】国際機構と持続可能な開発目標			【予習】テキスト第10章読む 【復習】テキスト第10章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
③【立瀬】国際協力とヘルスプロモーション			【予習】テキスト第10章読む 【復習】テキスト第10章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
④【特別講師】国際医療看護支援活動の実際			【予習】テキスト第10章読む 【復習】テキスト第10章を振り返る		【予習】60分 【復習】60分
⑤【山本】災害看護とは			【予習】テキスト第1～4章読む 【復習】テキスト第1～4章まとめる		【予習】60分 【復習】60分
⑥【山本】災害サイクルと災害各期の看護			【予習】テキスト第5,6章読む 【復習】テキスト第5,6章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
⑦【山本】災害時に必要な医療・看護技術			【予習】テキスト第5,8章読む 【復習】テキスト第5,8章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
⑧【山本】被災者と支援者の心理の理解と援助			【予習】テキスト第7章読む 【復習】テキスト第7章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分
使用テキスト： ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護(メディカ出版)			その他参考		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 世界で起きている紛争、貧困、災害が及ぼす影響について関心をもってください。					

看護学科

科目名: 在宅看護学援助論 I			担当教員 氏名: 炭谷 英信						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修				
<p>実務経験をうけてどのよ 病院、地域密着型サービス事業所での実務経験を活かして、在宅で暮らす人々の理解、QOL向上に向けた多職種 うな授業を行っているか: との連携・協働のあり方を教授する。</p>									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
<p>地域で暮らす療養者、家族を対象とした看護を展開できるようになるために、在宅療養者とその家族に対する在宅ケアの実際と、地域の特徴を捉えた展開方法を知り、そのケアシステムにおいて活動する看護職および介護支援専門員の役割を学ぶ。また、様々な障害を持つ人々が地域で暮らし続けるための仕組みとその仕組みづくりの方法や過程について学ぶ。</p>					地域、ケアシステム、仕組みづくり				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10					
A	知識・理解力	地域で活動する看護職および介護支援専門員の役割、社会資源の有効な活用方法について理解することができる。							
B	専門的技術	在宅支援サービスの具体的な展開方法を習得する。							
C	論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し、在宅療養者とその家族のアセスメントができる。							
D	問題解決力	地域の関係機関、各専門職、ケアマネジメントについて理解し「人、こと、もの」に働きかけることができる基礎を作る。							
F	チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通し、各自専門職としての役割を理解しチームに参画することができる。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	40 %	レポート:	10 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
<p>特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として、障害者疑似体験、事例検討(ロールプレイ、グループディスカッション、プレゼンテーション)などを行う。これらを行うことにより、地域で暮らす療養者、家族、サービスなどを理解し、多職種で連携しながら看護を展開できることをねらいとしている。上記の「その他10%」: 授業の取り組み姿勢を評価します。</p>									
<p>アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク</p>									
<p>テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間に確認テストを実施します。別に定めた日時に最終テストを行います。適宜レポートの提出と発表を課します。</p>									
<p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テスト、課題は後日返却します。</p>									
授業計画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
① オリエンテーション、在宅ケアの連携とマネジメント			【予習】シラバス確認、テキスト1の第1章A、第2章A、第3章A/B、第4章F、テキスト2の第1章①、第2章⑤を熟読 【復習】ノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
② 【課外学習】在宅看護における安全性の確保 (富山県福祉カレッジにて住環境、福祉用具の体験) 2回に分けて(A/B 別日)			【予習】別紙熟読	【予習】120分 【復習】120分					
③ 【課外学習】在宅看護における安全性の確保 (富山県福祉カレッジにて住環境、福祉用具の体験) 2回に分けて(A/B 別日)			【課題】課題シート記載	【予習】120分 【復習】120分					
④ 【課外学習】地域で暮らす高齢者・障害者と地域の理解 課外活動(地区踏査) ②③の入っていない時間で実施			【予習】テキスト1の第2章B、第5章C②、第6章環境アセスメントの部分、テキスト2の第2章p19、第3章⑥熟読 【課題】レポート記載 課題シート記載	【予習】120分 【復習】120分					
⑤ 地域で暮らす高齢者・障害者、生活環境の理解 ②③④まとめ			【予習】③④⑤の課題シート、レポートでの学びを統合 【復習】ポイントまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑥ 在宅ケアを支える制度と社会資源			【予習】テキスト1の第3章、第4章B、C 【復習】ノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑦ 【特別講義】地域包括支援センターの役割			【予習】テキスト1第4章B①該当部分、テキスト2p67-68熟読 【復習】ポイントノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑧ 多(他)職種との連携、在宅におけるケアマネジメントの展開方法 確認テスト			【予習】テキスト1の第3章、第4章F、G、テキスト2第2章④の⑥⑦p53-59、⑤の⑦p71-78熟読	【予習】120分 【復習】120分					
⑨ 在宅におけるケアマネジメントの展開方法			【予習】テキスト1 7章B事例参照 【復習】ケアマネジメント	【予習】120分 【復習】120分					
⑩ ケアマネジメント(グループ学習) 事例を用いて			【予習】別資料を配布するのでわからないことを調べてくる、テキスト3熟読	【予習】120分 【復習】120分					
⑪ ケアマネジメント(グループ学習) 事例を用いて			【復習】グループ課題の遂行	【予習】120分 【復習】120分					
⑫ ケアマネジメント(グループ学習) ケアプラン			【予習】合同授業の準備 【復習】グループ課題の遂行	【予習】120分 【復習】120分					
⑬ ケアマネジメント(グループ学習)			アクティブラーニング: 看護学科・社会福祉専攻・介護福祉専攻による合同授業、発表	【予習】意見交換、発表準備 【復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分				
⑭ ケアマネジメント(グループ学習)				【予習】120分 【復習】120分					
⑮ まとめ			【復習】全体の振り返り	【予習】120分 【復習】120分					
使用テキスト: 1. 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院出版) ISBN978-4-260-02762-5 2. 看護実践のための根拠がわかる 『在宅看護技術』新版 正野逸子、本田彰子 (メヂカルフレンド社) ISBN978-4-8392-1588-0 3. みんないきいき介護保険 社会保険出版社 コード89435			その他参考文献など:						
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業の予習・復習を前提とした主体的な姿勢で授業に臨んでください。適宜ロールプレイやグループワークを取り入れます。この授業は3年次の在宅看護学実習につながるものです。</p>									

看護学科

2年

科目名: 精神看護学援助論 I				担当教員 氏名: 坂東紀代美、高林知佳子、立瀬剛志	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 精神保健福祉センター及び保健所で保健師として勤務した経験を有する教員が、地域の生活を視座においた精神障害者への支援について講義する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
精神の疾病や障害が及ぼす生活障害(生きづらさ)を理解する。早期退院・地域での生活を視座に当事者なりのウェルビーイングに必要な資源の活用など精神障害者への援助の基礎を習得する。				こころの健康 地域定着支援 障害者総合支援法 強制入院 行動制限と人権尊重 治療的関係 ストレス	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力	精神障害者の「生きづらさ」について、精神症状や精神運動性興奮の影響などの知識を活用できる。精神障害者への社会的偏見の歴史を学習し、適切な援助に役立てることができる。				
C 論理的思考力	精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別看護として看護計画に反映させることができる。				
G 倫理観	精神科疾患や精神科病院への偏見を理解し、当事者への人権的配慮ができる。疾患からの行動を理解して対応できる。				
D 問題解決力	当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリを理解し関係する人や社会資源の活用を考えることができる。				
B 専門的技術	精神科疾患からの影響や各人に適した社会資源の活用、社会復帰についての知識を活用できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 70 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: ・残り20%は、レポートと発表を合わせた評価とする。 ・出席状況、授業態度、定期試験の結果などで総合評価する。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、DVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法: 試験、レポートは後日返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
【坂東】 ①精神保健医療福祉をめぐる歴史と法制度の変遷			【予習】①第10・11章参照 【復習】①第10・11章を復習する	予習60分	復習60分
【坂東】 ②ストレスと対処・防衛機制			【予習】①第2章参照 【復習】①第2章を復習する	予習60分	復習60分
【坂東】 ③精神障害者とその家族の支援			【予習】①第7章参照 【復習】①第7章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ④精神疾患の理解: 症状と治療			ノート・資料等で精神疾病管理論を振り返っておく。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑤⑥精神障害者の理解 DVD視聴 個人・グループワーク			【復習】グループワークのレポート作成	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑦精神障害者の理解 発表			【復習】グループワークのレポート作成	予習60分	復習60分
【立瀬】 ⑧自殺・引きこもりの現状と支援活動			【予習】①第5章参照 【復習】①第5章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑨精神薬物療法(作用、副作用)			【予習】①第8章参照 【復習】①第8章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑩嗜癮と依存症・地域における精神看護			【予習】①第8章参照 【復習】①第8章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑪看護の倫理と人権擁護(行動制限、処遇、身体拘束等)			【予習】①第9章参照 【復習】①第9章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑫障害のとらえ方・精神障害者のとらえ方、精神障害者とともに生きるということ			【予習】①第1章参照 【復習】①第1章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【坂東】 ⑬ライフサイクルとメンタルヘルス、現代社会とこころの問題			【予習】①第4・5章参照 【復習】①第4・5章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【高林】 ⑭精神障害者の医療の動向、精神保健福祉施策の現状、精神障害者の援助方法			【予習】①第11章参照 【復習】①第11章を復習として読む。	予習60分	復習60分
【高林】 ⑮障害者総合支援法、精神障害者の地域移行のための支援			【予習】①第11章参照 【復習】①第11章を復習として読む。	予習60分	復習60分
使用テキスト: ・精神看護学(1): 情緒発達と精神看護の基本(ナーシンググラフィカ) ・精神看護学(2): 精神障害と看護の実践(ナーシンググラフィカ)			その他参考文献など: ・こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫(医学書院) ・看護のための精神医学 第2版 中井久夫、山口直彦(医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 一見、身体疾患と違った学習内容も多く、日常的にはなじみのない用語も多く出てきます。しかし、決して特殊な領域ではないことが理解できると思います。興味を持って臨んでください。					

看護学科

科目名: 成人看護学援助論 I			担当教員 氏名: 大橋達子、中田 智子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
成人期は、社会的役割を担い、自立・自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。					手術侵襲・生体反応 術後合併症 周術期の看護 クリティカルケア
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる			
C 論理的思考力		さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探究する			
E 自己管理能力		自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない			
F チームワーク・リーダーシップ		グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う			
G 倫理観		他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: 0 %	発表: 0 %	実技試験: 0 %	その他: 10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。 授業の4回目および9回目終了時に小テスト、すべての授業終了後に筆記試験を実施する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【大橋】外科看護の特徴と課題			【予習】テキスト1の序章第1章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
②【大橋】手術侵襲と生体反応					
③【大橋】外科看護の病態と基礎			【予習】テキスト1の第9章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
④【大橋】術後合併症の発生機序					
⑤【中田】開胸術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第1章、第2章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑥【中田】開心術を受ける患者の看護					
⑦【中田】消化器(食道がん)・泌尿器の手術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第3章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑧【中田】消化器の手術を受ける患者の看護(胃がん・腹腔鏡手術)					
⑨【中田】消化器の手術を受ける患者の看護(膵胆肝)					
⑩【中田】開頭術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第1章第3章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑪【大橋】消化器の手術を受ける患者の看護(大腸がん・ストーマ増設)					
⑫【大橋】女性生殖器系(乳がん・子宮がん)・感覚器の手術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第4章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑬【大橋】運動器の手術を受ける患者の看護					
⑭【特別講義】クリティカルケア看護の基本概念			【予習】テキスト1の第10章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑮【特別講義】クリティカルな状態にある人の特徴と理解、援助				【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 1. 矢永勝彦他編集: 系統看護学講座; 別巻 臨床外科看護総論, ISBN978-4-260-02769-4 医学書院。 2. 北島政樹他編集: 系統看護学講座; 別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院。 3. 看護診断ハンドブック第11版, ISBN978-4-260-03451-7 医学書院。			その他参考文献など: 竹内登美子: 周術期看護1~5, 医歯薬出版株式会社、本庄恵子監修: 写真でわかる臨床看護技術②, インターメディカ		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 予習復習を必ず行いましょう					

看護学科					
科目名: 成人看護学援助論Ⅲ			担当教員 氏名: 小倉 之子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 授業内において実務経験をふまえた体験談、実際にイメージできる映像・画像を用いながら具体的に示すことで 学生の学習理解に繋げる					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
慢性疾患とともに生活をしている人を理解し、その人を支える慢性期看護の役割が理解 できる。さらに慢性期経過をたどる「がん」治療を中心としたがん看護、終末期看護など について疾患や症状をふまえて代表的な慢性疾患から患者の特徴と看護の展開方法を習 得する。					慢性期看護、がん看護、終末期看護、 セルフマネジメント
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号) 2. 3. 5. 6. 8			
A 知識・理解力	1年次に習得した看護理論、病態生理を再確認しながら理解することができる				
B 専門的技術	状況や関係を把握して、疾患看護の技術を習得することができる				
C 論理的思考力	さまざまな情報や知識を得て、大局的・論理的に分析することができる				
F チームワーク・リーダーシップ	演習において、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げてい くことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 終講試験は実施しません。評価について授業前の事前課題レポート、授業時間に実施する小 テスト、自己学習課題の結果をもとに総合的に評価をします。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートはコメント記入して返却後、授業中それを持参し活かすこと。次週授 業前にレポート内容を含めた小テストを実施する。					
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)			
		学習内容	学習に必要な 時間(分)		
①成人慢性期の特徴および慢性疾患の種類、疾病、看護の役割		【予習】第1章(慢性期看護)熟読 【復習】①の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
②慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性閉塞性肺疾患)		【予習】4章-I 熟読(慢性閉塞性肺疾患) 【復習】②の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
③慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(気管支喘息)		【予習】4章-II 熟読(気管支喘息) 【復習】③の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
④慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(高血圧)		【予習】4章-IIIを熟読(高血圧) 【復習】④の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑤慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性心不全)		【予習】5章6章を熟読(慢性心不全) 【復習】⑤の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑥【特別講義】緩和ケアの概要 ペインコントロール		【予習】第1章を参照 【復習】⑥の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑦【特別講義】スピリチュアルケア		【予習】第1章を参照 【復習】⑦の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑧終末期医療の特殊性、動向、看護の役割		【予習】第1章を参照 【復習】⑧の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑨慢性の消化機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性肝炎)		【予習】5章5-3を熟読(慢性肝炎) 【復習】⑨の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑩慢性の代謝機能障害をもつ患者における看護の役割(糖尿病)		【予習】5章5-4(糖尿病)、4章(インスリン療法を受ける 患者の援助)を熟読 【復習】⑩の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑪身体防御機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性腎臓病)		【予習】4章Ⅳを熟読(慢性腎臓病) 【復習】⑪の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑫透析療法を受ける患者への看護の役割		【予習】4章Ⅳを熟読(透析療法) 【復習】⑫の復習	【予習】120 分【復習】 131分		
⑬放射線治療の特徴と看護の役割		【予習】4章6放射線を受ける患者の看護を熟読(放 射線療法) 【復習】⑬の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑭化学療法の特徴と看護の役割		【予習】4章5化学療法を受ける患者の看護を熟読 (化学療法) 【復習】⑭の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
⑮身体防御機能障害をもつ患者における看護の役割(貧血・白血病)		【予習】5章5-6を熟読(白血病) 【復習】⑮の復習	【予習】120 分【復習】 120分		
使用テキスト: i.鈴木久美編「成人看護学」慢性期看護「病気とともに生活する人を 支える改訂第3版」南江堂 ISBN978-4-524-24198-9 2.田中越郎、イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき第3版、医学書院 ISBN978-4-260-03887-4		その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 成人看護学実習に向けて疾患の理解とアセスメントがきできるように理解を深めてください。					

看護学科

科目名: 高齢者看護学援助論 I			担当教員 氏名: 今川 孝枝、天野 良平		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化と、高齢者の健康と生活を整えるために必要な看護の役割を理解する。また、健康維持・増進のための環境調整についても理解する。				高齢者 QOL 健康障害 日常生活行動	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標		2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力		健康障害から影響を受ける生活行動及び健康問題について理解できる			
A 知識・理解力		高齢者に特有な健康障害に対するアセスメント、援助方法が理解できる			
B 専門的技術		高齢者の様々な療養の場の特徴と看護ケア方法を理解できる			
C 論理的思考力		健康障害を抱える高齢者のQOLの向上を目指した援助のあり方を検討する			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他は授業態度、取り組み姿勢、出席状況について評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テスト・レポートの実施時期: 別に定めた日時で最終テストを行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題は添削の後返却し、授業で解説する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①老年看護の役割・責務、高齢者医療の現状と課題			【予習】教科書①2・3章、②序章を読む 【復習】①の復習	【予習】60分 【復習】60分	
②身体の加齢変化と症状のアセスメント			【予習】教科書①4章B、②1・2章を読む 【復習】②の復習	【予習】60分 【復習】60分	
③身体の加齢変化と症状のアセスメント			【予習】教科書①4章B、②1・2章を読む 【復習】③の復習	【予習】60分 【復習】60分	
④身体の加齢変化と症状のアセスメント、診察・検査・治療			【予習】教科書①4章B、②1・2章を読む 【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑤【天野】高齢者理解(聞き書き)			【予習】教科書③を読む 【復習】⑤の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑥【天野】高齢者理解(聞き書き)			【予習】教科書③を読む 【復習】⑥の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑦高齢者の健康障害と看護			【予習】教科書①6章Bを読む 【復習】⑦の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑧高齢者の健康障害と看護			【予習】教科書①6章Bを読む 【復習】⑧の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑨高齢者の健康障害と看護			【予習】教科書①6章Bを読む 【復習】⑨の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑩高齢者の健康障害と看護			【予習】教科書①6章Bを読む 【復習】⑩の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑪高齢者のアセスメント(ICF)			【予習】教科書①3章Bを読む 【復習】課題に取り組む	【予習】60分 【復習】60分	
⑫高齢者のアセスメント(ICF)と評価			【予習】教科書②Fを読む 【復習】⑫の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑬高齢者と薬、チームケア			【予習】教科書①7章E、②5章を読む 【復習】⑬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑭高齢者の生活・療養の場における看護、災害時の看護			【予習】教科書①9章、10章Cを読む 【復習】⑭の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑮エンドオブライフケア			【予習】教科書①8章、②終章を読む 【復習】⑮の復習	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: ①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他:系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1 ③小田豊二他著:ワークブック「聞き書き」を始めよう(木星舎)ISBN978-4-901483-75-9C0037			その他参考文献など: 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 教科書は①②を併用するため持参してください。					

看護学科				2年	
科目名: 小児看護学援助論 I				担当教員 氏名: 古里 直子	
単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を生かして看護の場や対象の理解を現状について講義を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
小児看護学概論の内容を踏まえ、子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。病気や障害等の健康問題をもつ小児と家族を理解する。「子どもの最善の利益」を考慮した看護援助についての知識を習得する				病気・障がい・症状・健康問題・小児・家族 ・「子どもの最善の利益」・看護支援・倫理	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリクスで示される番号) 1. 2. 5. 6. 8.			
A 知識・理解力	①発達段階に合わせた小児の特徴を理解し、安全な看護援助を提供するための、知識を学ぶ				
C 論理的思考力	②健康問題に配慮した小児の成長発達・栄養への支援のあり方の、基本姿勢について記述できる				
B 専門的技術	③小児を取り巻く環境を考えることができる				
D 問題解決力	④健康障害をもつ子どもと家族の看護について理解を深め、自己の看護観を深めることができる				
F チームワーク・リーダーシップ	⑤「子どもの最善の利益」を考慮し、子どもとその家族を尊重した支援について考えることができる				
G 倫理観					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 80 %	レポート: 10 %	発表: %	課外活動: %	その他: 出席10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各単元終了後に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載する。必要に応じて返却する。					
授業計画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		
①【古里】小児看護学① こどもの身体的特徴と看護①			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】配布資料の確認と復習	【予習】100分	
②【古里】小児看護学① こどもの身体的特徴と看護②				【学習】60分	
③【古里】小児看護学① こどもの倫理と発達段階				【学習】60分	
④【古里】小児看護学①第2章 小児の状況(環境)に特徴づけられる看護				【学習】60分	
⑤【古里】ゲストスピーチ:小児看護① 周手術期の子どもと家族の看護				【学習】60分	
⑥【古里】小児看護学①第3章 小児における疾病の経過と看護				【学習】60分	
⑦【古里】小児看護学① 第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護				【学習】60分	
⑧【古里】ゲストスピーチ:小児のこころの発達をふまえたかかわりかた	【復習】 レポート提出			【学習】60分	
⑨【古里】小児看護学② 第3章 代謝性疾患と看護				【学習】60分	
⑩【古里】小児看護学② 第6章 感染症と看護				【学習】60分	
⑪【古里】小児看護学② 第8章 循環器疾患と看護				【学習】60分	
⑫【古里】小児看護学② 第9章 消化器疾患と看護				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】配布資料の確認と復習	【学習】60分
⑬【古里】小児看護学② 第11章 悪性新生物と看護				【学習】60分	
⑭【古里】小児看護学② 第12章 腎・泌尿器疾患と看護				【学習】60分	
⑮【古里】小児看護学② 第13章 神経疾患と看護				【学習】60分	
評価審査	試験 小児看護に関わる法律と理論、小児と家族の生活・療養するための看護の理解を問う				
使用テキスト:	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ISBN 978-4-260-02002-2 ※1年次購入済 ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①「解剖生理学」 ISBN 9784840453745※1年次購入済 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ISBN 978-4-260-01990-3 ・新訂版 写真でわかる小児看護技術 インターメディア出版 ISBN 978-4-8996-409-4 ・ナーズの小児科学 改訂6版 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5 		その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・成長・発達の特徴を理解し、看護につなげることができる考えをトレーニングする場とする。 ・看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識の習得を目指す。					

看護学科				2年	
科目名: 母性看護学援助論 I			担当教員 氏名: 炭谷靖子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験をういてどのような授業を行っているか: 担当教員は保健師、助産師、看護師として保健センター、病院、訪問看護ステーションでの勤務経験を有している。それらの勤務経験を高め、看護者としての母子看護、保健と医療等について伝えていきたい。また、自分事として母子保健をとりたてほしい。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
マタニティサイクルにある女性及び新生児とその家族の特徴を理解し、良好な経過を促すための看護に関する基礎的知識と技術及び態度の習得をめざす。更に、健康障害を持つ女性の看護における基礎的知識の習得をめざす。				妊娠 分娩 産褥 胎児 新生児 母体の変化 マイナートラブル 心理的变化 母子相互作用 母親役割 子宮外生活への適応 ハイリスク妊娠	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識を学ぶ。				
B 専門的技術	妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得するための基本的姿勢をつくる。				
C 論理的思考力	母子の身体的な一体性から社会的な二者一体性への連続した変化を考える。				
D 問題解決力	正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。				
G 倫理観	女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 70 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 授業と並行してレポート課題に取り組み、自己の学習ノートを作成し母性看護学実習に向けた学習準備を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ガイダンスでレポート課題を提示します。また講義期間中にミニテストを実施します。科目試験は授業日程終了後に実施しますので日程を確認してください。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ミニテスト、テストにおいては解説を行う。 レポート課題については学習到達をコメントし返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【炭谷】ガイダンス、マタニティサイクルにある人々の看護の主要な概念(p1~31)	【予習】シラバスの確認。p.18~25の図を他人に説明できるようにしておく【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
②【炭谷】妊婦の看護1: 妊娠期の身体的変化(p33~54)	【予習】図2-1-2-2-4-2-5を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
③【炭谷】妊婦の看護2: 妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント セルフマネジメント(p54~92)	【予習】図2-18.19を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
④【炭谷】妊婦の看護3: 妊娠期の異常(p93~128)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑤【炭谷】産婦の看護1: 分娩期の生理(p129~154)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑥【炭谷】産婦の看護2: 産婦のニーズと看護(p154~166)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑦【炭谷】産婦の看護3: 分娩期の異常と看護①(p167~190)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑧【炭谷】産婦の看護4: 分娩期の異常と看護②(p190~206)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑨【炭谷】褥婦の看護1: 産褥期の身体的変化と看護(退行性変化、進行性変化)(p207~225)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑩【炭谷】褥婦の看護2: 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護(p226~236)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑪【炭谷】母乳育児と看護(p237~262)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑫【炭谷】産褥期の異常(p263~292)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑬【炭谷】新生児の看護(p293~318)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑭【炭谷】新生児期の異常(p319~350)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
⑮【炭谷】特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援(p351~368)	【予習】テキストの学習範囲にある図表を他人に説明できるようにする。 【復習】重要用語の復習		【予習】30分 【復習】30分		
使用テキスト: 小林康江 他: ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 ISBN978-4-8404-7532-7 母子健康手帳 ※1年次購入済			その他参考文献など: 佐世 正勝 石村 由利子: ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図、医学書院、井上 裕美他:「病気がみえるvol10 産科」メディックメディア 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ 平澤美恵子 森恵美 系統看護学講座専門分野II 母性看護学各論母性看護学[2] 医学書院 母子健康手帳 ※1年次購入済 日本助産診断・実践研究会(編)マタニティ診断ハンドブック第6版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): マタニティサイクルにある母子の身体的変化を学ぶ上で、基本となる“からだの構造と機能”について事前に学習しておきましょう。また、母性看護学に関連する新聞記事や図書に目を通し、母子と家族をめぐる社会状況に関心を持ちながら「我がこと」として講義に臨みましょう。なお、授業期間に妊婦の疑似体験をする予定です。(妊婦ジャケットの着用)					

看護学科				2年	
科目名: 基礎看護学実習Ⅱ			担当教員 氏名: 高田 亮子 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	備考	
2	2年次 前期	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		臨床現場で実際の患者を受け持ち、看護技術論Ⅱで学んだ問題解決技術を使って、アセスメント、援助計画立案、実施、評価の一連の過程を体験し、既習知識を各自なものとする。ともに教員・指導者とともに思考過程を重視し、ディスカッションしながら、看護実践能力を作り上げられるようにしている。			
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
受け持ち患者とのコミュニケーションを図り、「看護過程」の技術を用いてアセスメント、援助計画の立案、実施と評価の一連を実習し、患者個々のニーズに応じた「看護過程」展開の方法を初めて体験し学ぶ。この実習を通して自己の看護実践レベルを自己評価し、実習後に開講する各看護学援助論の講義に臨む前段階として、この実習での経験から、自己を看護師として「つくり・つくりかえ・つくる」過程を意識する。(臨地実習)			・コミュニケーション ・看護過程 ・基礎看護技術 ・生活行動援助技術		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10	
A 知識・理解力		・受け持ち患者のアセスメントに必要な情報について述べるができる ・受け持ち患者のアセスメントに必要な情報を得ることができる ・得ることのできた情報を元に受け持ち患者の人物像を述べるができる			
D 問題解決力		・看護過程を実践し、受け持ち患者の問題を明確にできる			
B 専門的技術		・受け持ち患者の個別性に応じた援助を実践し評価できる			
C 論理的思考力		・自分が行った看護過程の展開について説明できる			
H コミュニケーション力		・受け持ち患者とコミュニケーションを図ることができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	%
特記事項: 以下により総合的に評価する。 ・出席状況・実習記録類・課題レポート・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること。 * 原則として遅刻、欠席は認めない。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 担当教員が毎日記録や学習状況を確認し指導を行い、内容および取り組み姿勢に対して評価する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
2年次 前期 2単位:90時間					【予習】 【復習】
実習施設: <ul style="list-style-type: none"> ・ 済生会富山病院 ・ 厚生連高岡病院 ・ 富山協立病院 ・ 射水市民病院 ・ 金沢医科大学水見市民病院 ・ 西能病院 ・ 真生会富山病院 ・ 富山西総合病院 * 詳細については実習要項に記載			・指定の事前学習内容について記録用紙に記録する ・生活行動援助技術の修得 ・看護過程の展開(事例)		
使用テキスト:			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護を提供するためのプロセスを、一人の患者を受持、病気や治療、日常生活の障害をアセスメントし、講義で学んだ日常生活援助技術を状態に合わせて実践できることを目指します。既習学習を応用する力が求められるため、復習・予習を誠実に知識とする力が重要です。患者への責任意識をもち、真摯に向き合った実習としてください。 また、本実習の目的を理解し、目標達成に向けて必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組むこと、指導者や教員への連絡・相談・報告を密に行うこと、自己の健康管理に留意し実習に臨んで下さい。					

看護学科				2 年	
科目名: 看護研究 I (看護研究の基礎)				担当教員氏名: 炭谷靖子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師・助産師・保健師の実務経験を活かして、実践と研究の関係等について講義する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
Evidenceの積み重ねによって看護を発展させることが必要である。そのための基礎的な技術・態度を身につけることを目標とする。また、学会や研究会に参加することの必要性、研究活動・他者との意見交換の必要性について体験し考えることも目指す。				看護研究 学会 文献検索 倫理的配慮	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7	
A 知識・理解力		看護師として成長し続ける基礎を作るために ・看護師が研究活動を行う意義について述べるができる。 ・研究方法の種類等について述べるができる。			
B 専門的技術		・興味のあるテーマについて文献検索し、焦点を絞ることができる。 ・研究論文についてクリティークを行うことができる。			
C 論理的思考力					
D 問題解決力		・担当教員やグループメンバーとの調整を自主的に行い、課題を遂行できる。			
E 自己管理能力					
F チームワーク・リーダーシップ		・研究における倫理的配慮について述べるができる。			
G 倫理観					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業におけるショートコメントを評価指標として用いる。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートにコメントを記載して返却。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①看護研究オリエンテーション、看護研究とは			【予習】教科書Part1を読む 【復習】①の復習	【予習】60分 【復習】30分	
②看護実践力と研究的思考			【予習】教科書Part2を読む 【復習】②の復習	【予習】60分 【復習】30分	
③文献検索と文献購読			【予習】教科書Part3を読む 【復習】③の復習	【予習】60分 【復習】30分	
④文献検索の実際			【予習】興味領域のキーワードを調べる 【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑤文献検索演習			【予習】図書館のホームページを確認する 【復習】⑤の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑥研究論文の構成要素			【予習】教科書Part4を読む 【復習】⑥の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑦論文作成のルールとマナー			【予習】教科書Part5を読む 【復習】⑦の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑧看護研究における倫理			【予習】教科書Part6を読む 【復習】⑧の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑨看護研究方法論-1			【予習】教科書Part7を読む 【復習】⑨の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑩看護研究方法論-2			【予習】教科書Part7を読む 【復習】⑩の復習	【予習】60分 【復習】30分	
⑪プレゼンテーション演習			【予習】教科書Part8を読む 【復習】興味のある文献の検索	【予習】60分 【復習】30分	
⑫プレゼンテーション演習			【予習】プレゼンテーション資料の作成 【復習】プレゼンテーション資料の作成	【予習】60分 【復習】30分	
⑬プレゼンテーション演習(発表)			【予習】プレゼンテーション練習 【復習】発表振り返り	【予習】60分 【復習】30分	
⑭プレゼンテーション演習(発表)			【予習】プレゼンテーション練習 【復習】発表振り返り	【予習】60分 【復習】30分	
⑮座長・演者のこころえ まとめ			【予習】教科書Part8を読む 【復習】全体振り返り レポート作成	【予習】60分 【復習】30分	
使用テキスト: 著: 李 節子: 看護研究こころえ帳3版、医歯薬出版、ISBN978-4-263-23759-5 C3047			その他参考文献など: 近藤潤子 監訳: 看護研究—原理と方法、医学書院 (他 研究に関する図書) 系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院、黒田裕子、ISBN978-4-260-02182-1		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。					